

令和七年元旦 修正会のご案内

日 令和7年1月1日(水)
時 午前10時30分
内容 勤行 法話 茶話

一年の計は元旦にあり。
新年最初のお勤めを有縁の方々と執り行います。
みなさまと一緒に新しい年をお迎えし、我が身の命を見つめるひとときを持ちたいと思います。
どうぞご家族お誘いあわせの上、ご参詣ください。

今月のことば

たとえ朝咲いて
夜散る
花であっても、
その中には
無限の
いのちがある

金子大榮

『真宗入門 教行信証のこころ』より、浄土真宗の僧侶、金子大榮さんの言葉です。その花は、無量無数の縁と生命の連続があつて今、咲いている。あなたの中にも無限のいのちがある、そう言われているような気がします。

十一月同朋会より

住職法話 「観見諸仏浄土因 国土人天之善悪」(正信偈より)

あるお宅に立派な壺がありました。ある時、お母さんが掃除をするのにその壺をいつもと違う場所に置きました。そこへこどもが帰ってきて壺に気づかず割ってしまいました。「あら！割っちゃったのね。お父さんに謝りなさいよ！」「いや、割ったのは僕だけじゃないと違うところに置いたお母さんが悪いんでしょ！」「そこへお父さんが帰ってきて怒りもせず「形があるものはいつか壊れるんだから悲しいけれど仕方がないね。」と言いました。それを聞いてお母さんは「私が動かしたから悪かったんだわ。」こどもは「僕が気を付けていなかったから悪かったんだ。」と言ったそうです。私たちは知らず知らず自分に正しさを立てて相手とぶつかったりしますが善し悪しを超えたものに出あったとき、自分の姿に気づかされることがあるのです。

前住職法話 「念仏成仏是真宗」 歎異抄第一章から

阿弥陀さまは仏になる前は法蔵菩薩と名乗っていました。仏さまになるには修行をして自分の浄土をつくっていかねばなりません。しかし法蔵菩薩にはたくさんの浄土を見せてもらっても自分の考える浄土がありませんでした。それはどんな人でも生まれることのできる浄土です。ないなら浄土を作るしかない。全ての人が私の浄土に生まれなければならないと誓いを立てます。どうしたらその願いが人々に届くのか。その願いの全てを名前に込めることにしました。「私の名前を呼びなさい。そして浄土に生まれたいと願いなさい。」それが南無阿弥陀仏です。願いを名として伝え、全ての人に手渡ししていかれるのです。ですから、私たちが声に出して「南無阿弥陀仏」と念仏を称え聞いた(受けとめた)とき、阿弥陀の願いが私にまで届いたことになるのです。

十二月同朋会(第二土曜日)

十二月十四日

時 午後一時から三時半
内容 ・勤行

- ・法話(正信偈、歎異抄より)
- ・茶話会(茶菓代 500円)

今年最後の同朋会です。忘年会ならぬ望年会代わりにぜひお出掛けください。

ほうもりのひとりごと

徳泉寺の郵便物は長年、前住職の手書きの宛名ラベルを使ってきました。丁寧で個性的な字は大変重宝がられていましたが、今後郵便事情により、デジタルの活字に変更になります。変更にあたって何度も確認しておりますが、万が一お名前や住所に間違いがあった場合、お手数ですが徳泉寺までご連絡いただきますようよろしくお願い申し上げます。